

はじめに

平成16年10月13日～10月22日までの10日間に渡り、アテネ、ローマ2地域を視察し、南欧の廃棄物処理の状況について情報収集するとともに、環境ビジネス市場の動向につき調査を行った。

企画運営委員長のタクマの松村営業部長を団長に、工業会の木下専務理事を最高顧問として参加いただき総勢21名（内添乗員1名）の調査団となった。

実行委員会準備会を通年より早目の本年3月に立上げ日程、視察先の検討を行った。日程については、全都清の日程と重複せず、ISWA（国際廃棄物協議会）のローマ大会に参加できるように考慮した。視察先は、当初スペインも候補にあがっていたが、イラク戦争の後遺症でスペイン国内でのテロ事件（3月）があり、比較的安全であろうアテネ五輪のギリシャ・イタリアを選定した。

南欧にしては、天候不順が続き、特にアテネでは、アテネ五輪以来という雨に見舞われた。成田からアテネまで19時間の強行軍をはじめとして、移動に結構時間を取られたが、所期の目的どおり調査を実施することができ、22日、全員無事に帰国した。

詳細は、各班の執筆者の報告をご覧頂くとして、以下に今回の調査概要を記載する。

【概要】

10月13日11:25に成田発。パリでトランジットしアテネ空港着25:45。ホテルにチェックインしたのは、26:30。パリでの乗り継ぎ便が1時間遅れたことも影響し、なんと19時間の長旅となった。次の日は、時差調整を目的として、エーゲ海でクルーズを楽しんだ。しかし、名実共に「船を漕ぐ」団員が相次いだ。前日の強行軍を考慮すればいた仕方なしと言うべきか。また、「蒼い空と海」エーゲ海を期待したが、曇天であった。夜は、アテネ五輪以来と言う雨天となった。

次の日は、初めての視察地 A.C.M.A.R(Association of Communities And Municipalities In The Attica Reigion Solid Waste Management :アテネ市を中心としたアッティカ県全域の廃棄物処理会社)を往訪した。アテネ市内から高速で走ること約1時間、人家もなく荒涼とした盆地に東京都の中央防波堤の数倍もあろうかと思われる最終処分場に到着した。バイオガスプラントの視察と言うことであったが、基本的には日本で言う最終処分場に持ち込まれた廃棄物の一部を有効利用するための処理施設であった。

- ① 最終処分されたガスを回収し発電する施設。
 - ② 持ち込まれた廃棄物を分別しビンや缶などを再利用するために分別する施設。
 - ③ さらに、有機物を発酵させコンポスト化する施設。
- の3施設を視察した。

アテネでは、分別されず何でも棄てられており、ごみピットには、厨芥物のほかにパソコンやソファなどいわゆる「可燃粗大ゴミ」やビン、缶など「資源化ゴミ」が混在しており最終処分場で分別している状況であった。それも最終処分場に持ち込まれるゴミのごく一部にすぎず、これからは施設を増設して有効利用率を高めるとのことであった。

具体的な経済効果の数値が明らかになっていないが、何でも混在したゴミから有効物を分別しているアテネの収集⇒分別より、日本での分別⇒収集の方が経済合理性に叶っていると再認識した。

4日目の10月16日（土）は、ローマへの移動の合間を縫って市内視察をした。前日とは打って変ったのアテネ日和でパルテノン神殿の階段を汗をかきながら登る程であった。古代の遺跡がそのまま市内にあり近代的な五輪施設とよくマッチングしていた。しかし、五輪施設の維持管理費が年間1000億円にもなりアテネ市の財政を圧迫しているとの報道が帰国後なされていたが、人口1000万人のギリシャには過大な施設だったかもしれない。

ローマ移動の次の日の17日（日）は、調査団を二班に分けフィレンツェとナポリの視察をした。小職は「ナポリ班」であり約1時間南のナポリに向かった。「ポンペイ遺跡」は、今回の視察で何より印象的であった。約2000年前ベスビオス火山の噴火により火山灰に埋まった街で当時の生活をそのままに、発掘されるまでの約1800年間眠り続けた遺跡である。当時のローマ人の生活水準の高さに、ただ驚愕するばかりであった。日本はようやく弥生時代と言うのに、技術や物質の豊かさだけでなく社会制度まで現代的（むしろ進んでいたかもしれない）であったといえよう。

10月18日（月）は、ISWA会議に参加した。参加制限があり工業会木下専務理事と神鋼環境ソリューションの赤澤氏に代表して出席いただいた。このお二人は、工業会を代表して2日後に、ローマ法皇謁見を許可されるという栄誉に浴した。

10月19日（火）は、第二の視察地エコイタリーマラグロッタ処分場を往訪した。ローマ市を中心としたゴミが、この処分場に最終処分される。

エコイタリーマラグロッタ処分場も基本的にはアテネと同様で最終処分したゴミからメタンガスを抽出しガスエンジンにて発電を行っている。また、コンポスト化を行っており農地に還元するとのことであった。最終処分される前に有効利用の余地が多分にあると感じた。

午後は、ピサ大学のコメッリ教授より燃料電池の将来のあるべき姿につき講演がありディスカッションを行った。

視察の空き時間にローマ市内の遺跡・名所を視察した。コロッセオ、スペイン広場、トレビの泉等おなじみのコースであるが、「ローマの休日」を思い出す。たまたま、帰国一週間後に「ローマの休日」の再放送をしていた。オードリーの演ずる「アン王女」がローマグレゴリーペック演ずる新聞記者ジョー・ブラッドリーとローマ市内をお忍びでデートするのだが、将に、私共が回

った観光名所が出てきて、40年前と変わらぬ風景に感銘を受けた。

ローマ最後の日は、松村団長主催のフェアウエルパーティーを中華料理レストランで行い、調査旅行の成果や旅の思い出を語り合って散会した。翌日20日パリにトランジットし22日14:30成田に無事全員帰国した。

【おわりに】

小職は、松村委員長より実行委員長を拝命し、今回の調査団の日程・調査先のお世話をさせていただいた。なにせ初めての経験であり不慣れなことの多い中、工業会の田村室長のご指導や赤澤副実行委員長（海外駐在経験を生かした）のアイデア提供、横山副団長の的確なアドバイスがあり、大変スムーズに企画～実行ができた。また、何より、団員皆様のご協力により全員、大過なく無事に帰国でき、尚且つ有益な調査であったことを感謝し、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

社団法人 日本環境衛生施設工業会
第11回 海外環境事情調査団 副団長
企画運営委員会委員 実行委員長 村河 善信